2012年7月号の工連ニュースVol.572（沖縄県工業連合会広報誌）に弊社沖縄工場が紹介されました。

がんじゅう元気カンパニー

「パンの缶詰」を沖縄からアジア、そして世界へ。リスクマネジメントと海外展開を視野に沖縄へ進出。

【株式会社パン・アキモト】うるま市州崎の特別自由貿易地区にある沖縄工場では、パンの缶詰をメインに製造しています

紅芋や黒糖味の沖縄限定の商品も

賞味期限13か月の定番人気シリーズ

しっとり、ふんわりした食感は、とても保存食とは思えない美味しさ

賞味期限37か月のおいしい備蓄食シリーズ

「創業65年を誇る那須高原のベーカリー」

株式会社パン・アキモトは、栃木県那須塩原市に本社を置く、パンの製造・小売業者です。創業は昭和22年。現社長である秋元義彦氏の父親が「秋元パン店」を開店したのが始まりで、那須高原の麓のベーカリーとして65年間、地元の人々に愛され続けてきました。現在では、栃木県の本社工場売店をはじめ、同県内でショップ3店舗を営むほか、プチパン80など病者用パンを積極的に販売しています。平成7年に話題となり大ヒットした「パンの缶詰」を開発。平成12年に「株式会社パン・アキモト」に社名を変更。そして平成17年に「パンの缶詰」の製造をメインとした沖縄工場を操業しました。

「パンの缶詰開発のきっかけは阪神・淡路大震災です。先代の社長と一緒に、何かできることはないかを考え、普通の食パンやバターロールを震災の2・3日後にトラックに積んで持っていきました。しかし、パンですから日持ちせず、一部のものは賞味期限切れで届かないところもありました。それで、長持ちする美味しいパンを作ることができないか、考え始めたんです」真空パックにしてみたり、何度も実験

通常のパンと同じように、ほとんどが手作業でつくられています

通常の2倍の大きさの「救缶鳥プロジェクト」用備蓄缶

「物流コストの高い沖縄に工場を作った理由」

「中越地震をきっかけに注文が増え、生産能力の拡大を考え始めていました。新工場は西日本での販売を予定していたので、近畿や山陰地方で工場用地を探していました。そんな時に、当社の常務でもある私の妻が参加した、沖縄県主催の企業誘致ツアーで、特別自由貿易地区の工業団地を視察したのがきっかけです。それからもうひとつ、災害備蓄品を扱っている会社が被災し、操業が止まってしまっては話しになりません。リスクマネジメントとして、南に工場の必要性を感じたこともあります」

将来的にはアジア向けの輸出の拠点として、また米軍基地もあり、アメリカへの足掛かりとしての狙いもあったといいますが、日本・アメリカ・中国・台湾の特許もすでに取得済み。平成17年の3月末に決断し、その年の7月に操業開始という、異例の早さでの沖縄工場設立でした。奇しくも、東日本大震災では栃木の本社工場も被災し、沖縄工場から多くのパンの缶詰が被災地に送られました。

防災備蓄品は災害の時には売れますが普段は需要が落ちる、いわば特需商品。毎年安定しているわけではなく減産になることも。実際、沖縄工場でもスタッフの雇用確保のために、約2年間、通常のパンを焼いて宅配で販売していたこともあるそうです。また、防災用品以外の市場として、ギフトやノベルティ、アウトドアといったジャンルでの開拓も続けています。平成19年に米軍販売許可「フードインスペクション」許認可を取得。そして平成21年3月には、スペースシャトル・ディスカバリー号に積載され、宇宙食としても利用されました。

同社が今もっとも注目を集めているのが、世界の飢餓対策支援活動「救缶鳥プロジェクト」です。これは、まずお客さんに備蓄用として「パンの缶詰」を買ってもらう。37か月の賞味期限ギリギリではなく、多少余裕のある2年をメドに下取り。そして新たな2年分の缶詰をディスカウントして（回収個数×100円引き）提供するとともに、回収した缶詰は世界各国の災害や飢餓に苦しむ人々の所へ届け食べてもらう、というもの。賞味期限切れでゴミにならず、2回目からは安く購入できることもあり、多くの企業・役所・学校・団体などで採用され、備蓄が進んでいます。個人での小口ロットの参加も可能です。これまでに、ジンバブエ飢饉、フィリピン・ミンドロ島大洪水、ハイチ大地震、東日本大震災など、日本をはじめ世界中にパンの缶詰が届けられました。

パンの缶詰が世界各国で注目されるのは、一時的な善意ではなく、継続性のあるビジネスとして成り立っているからでもあります。「物流などさまざまな問題はありますが、沖縄ならではのことがしたい。片目で地元を見、片目で世界を見据える企業になりたい」と秋元社長は話します。

今年7月には、アメリカに現地法人も設立。市場調査をしたうえで、パンの缶詰の販売や救缶鳥プロジェクトをアピールする計画で、現地メーカーに製造を委託することなども視野に、アメリカへの本格進出の足場にしたいとのこと。同社のこれからもますます楽しみです。

紙を敷きパン生地を詰めて、缶ごと焼き上げるのが特徴

焼き上がったら冷めるのを待ち、フタをしてラベルを貼り出来上がり

秋元義彦
代表取締役

株式会社 パン・アキモト［会社概要］

社　　名	株式会社 パン・アキモト
業　　種	パン・洋菓子の製造・販売、アイスキャンディーの製造・販売。
創　　立	1947年12月
代 表 者	代表取締役　秋元義彦
住所・電話	うるま市州崎12-78　TEL.098-921-4570
本　　社	栃木県那須塩原市東小屋295-4　TEL.0287-65-3351
オフィシャルサイト	http://www.panakimoto.com